

2017年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日 2018年08月16日
氏名：猪狩 友美	実施国：ベナン共和国	調査研究
活動名称	ベナン共和国におけるブルーリ潰瘍患者の治療希求過程と決定要因についての研究	
実施期間	2018年02月～2018年06月	
(1) 申請した動機		
<p>青年海外協力隊の村落開発普及員としてベナン共和国に派遣され、小学校での学校保健普及活動を行った経験や、在ベナン日本国大使館で在外公館派遣員として3年間勤務した経験から、発展途上国における保健の重要性と課題を感じ、今後も国際保健分野、特にフランス語圏アフリカで仕事を行っていきたいと考え、国際保健・公衆衛生について勉強するため現在の大学院に進学した。</p> <p>これまでの経験を通じてベナンでも流行する顧みられない熱帯病の一つであるブルーリ潰瘍に着目した。この疾患は早い段階であれば抗生物質による治療で多くが後遺症を残さずに治療することが可能である一方で、症状の進行が遅いことや、社会・経済的理由、文化的理由などの様々な理由から、すぐに病院へ受診にしない患者も多くいることが課題の一つとして挙げられている。その結果、身体に障害が残るなど生涯にわたる障害が起きてしまうという課題がある。</p> <p>また、患者の多くが貧困層であることから注目が低く、研究も他の熱帯感染症と比較すると多くはない。現時点で感染経路が特定されておらず、確実な予防ができないことから、症状に気がついたらなるべく早い段階で病院を受診し抗生物質による治療を開始することが重要であると考えられる。そこで実際にブルーリ潰瘍治療センター（以下BUセンターと明記）を受診した患者が受診までにどのような治療希求過程を辿ってきたか、そしてその選択にはどのような決定ポイントがあったかを患者へのインタビューから明らかにすることがブルーリ潰瘍の患者の早期の病院受診を促すために有益であると考え、本研究を実施するに至った。</p>		
(2) 活動内容概要		
<p>調査地：ベナン共和国 アトランティック県アラダ市、クッフオ県ラロ市およびその近郊</p> <p>活動目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブルーリ潰瘍の患者がBUセンターを受診する前に辿った治療希求について記述する。 ・ブルーリ潰瘍の患者の治療選択のポイントについて理解する。 <p>インタビュー対象者：2017年、2018年にアラダ・BUセンターまたはラロBUセンターを受診しブルーリ潰瘍と診断された患者/元患者または介護者30名、医療関係者14名、コミュニティヘルスポランテニア10名、コミュニティメンバー12名（村長5名、教師3名、薬草師4名）</p> <p>調査内容：</p> <p>フランス語、現地語（フォン語、アジャ語）の運用能力のある現地人を研究補助員として雇用し、以下の調査を行った。</p> <p>1 インデプスインタビュー 患者がBUセンターに来る前に行った治療希求過程とその選択のポイントについてインタビューを行った。</p> <p>2 キー・インフォーマントインタビュー 医療関係者、ヘルスポランテニアからはブルーリ潰瘍への取り組みシステムについてインタビューを行った。加えてコミュニティメンバーからは、地域住民の一般的な医療希求とブルーリ潰瘍に罹った場合の治療希求についてインタビューを行った。</p>		

(3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等

活動の成果

- ・インタビューを通じて、患者の治療希求についての各ケースヒストリーと治療選択のポイントを記述することができた。また、患者の治療希求について共通するパターンをまとめることができた。
- ・プロジェクト報告書の作成（別紙添付）

苦勞した点・難しかった点

- ・現地で調査実施の許可を得るための倫理審査の取得に時間を要した。
- ・インタビュー対象者の選定にあたってはBUセンターが所有する患者リストを元に、現地語の堪能な調査アシスタントからコミュニティヘルスボランティアを通じて連絡をとった。しかし、すでに元患者が村を離れてしまっているケース、他界しているケースなど、患者の追跡に苦勞した。また、住民の多くは農耕民であり、フィールド調査を行っていた時期は農作物の収穫と重なっていたため、対象者にインタビューに協力してもらうことが容易ではなかった。
- ・インタビューの実施時期は雨季だった。インタビュー対象者の居住する地域はインフラが整備されていないところが多く、交通手段も限られる農村部に位置するため、雨が降った際の移動は特に困難を極めた。

(4) 今後のプラン

- ・修士論文として調査結果をまとめる。
- ・研究結果の報告（ベナンブルーリ潰瘍・ハンセン病国家対策局、アラダとラロBUセンター）
- ・研究結果の学会での発表および雑誌への投稿を予定。